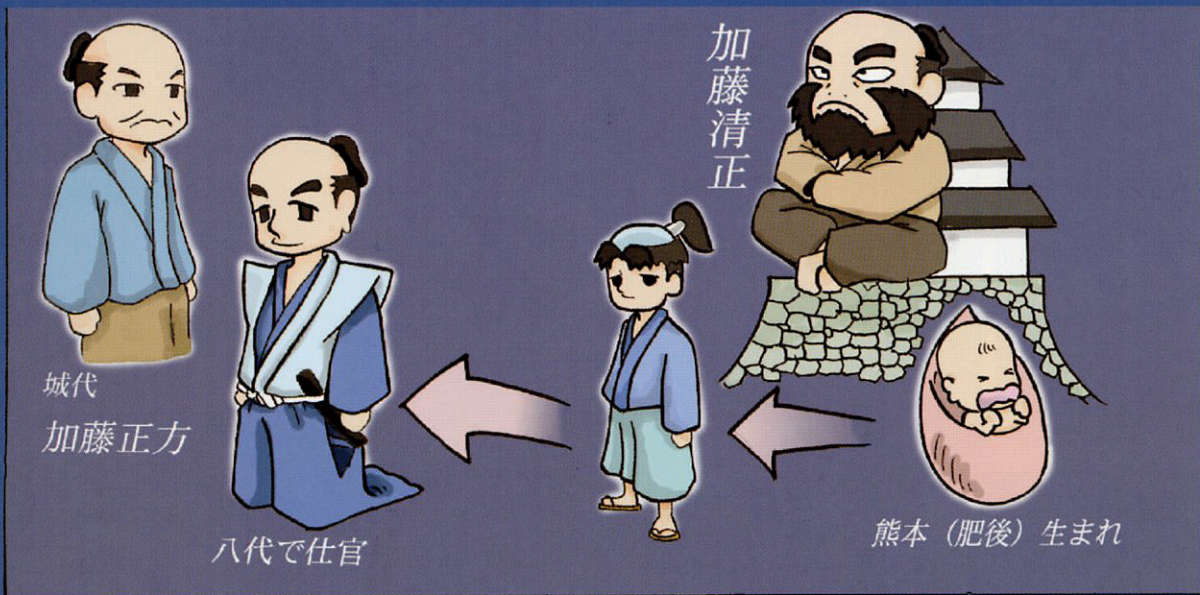




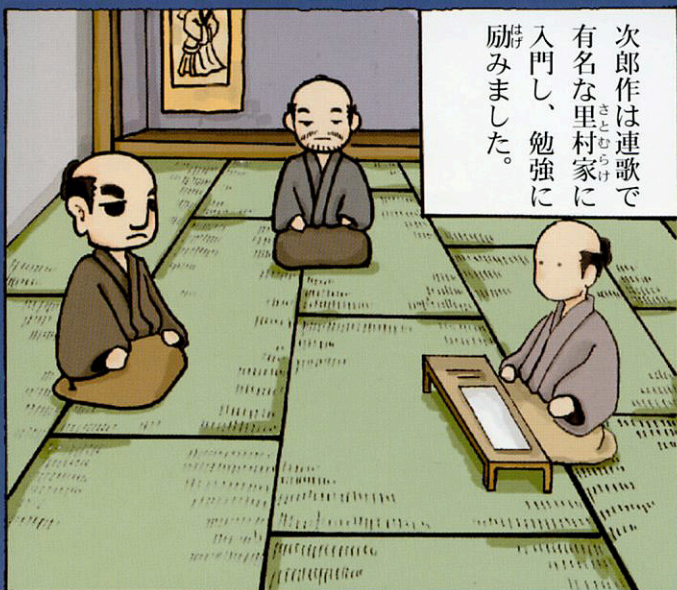
今の私があるのも
西山宗因先生のおか
げさ。

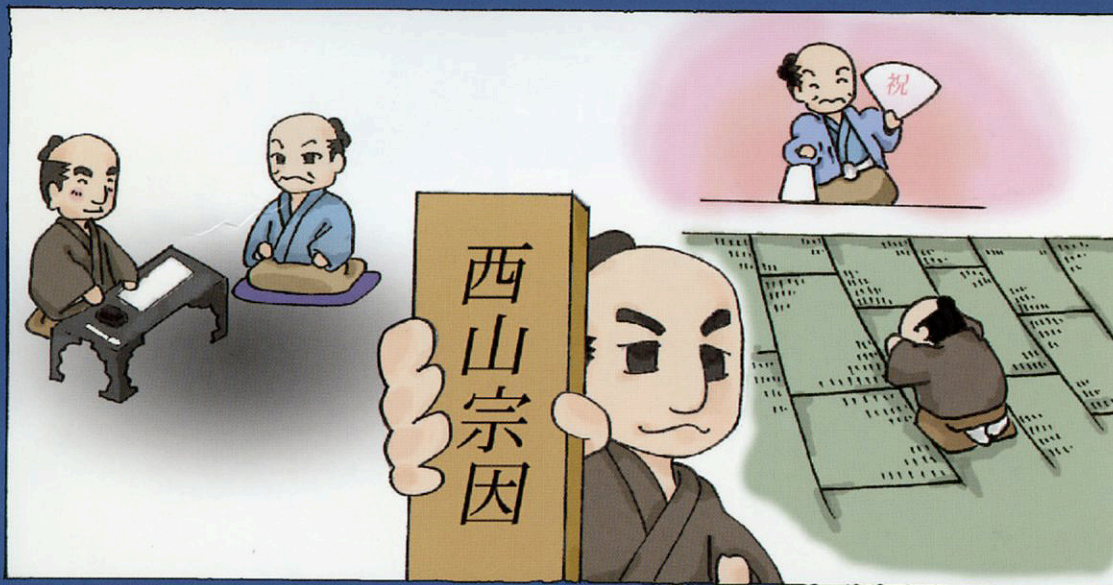
さすが先生。
素晴らしい句
ですね。

にしやま そういん 八代が育てたスター・西山宗因



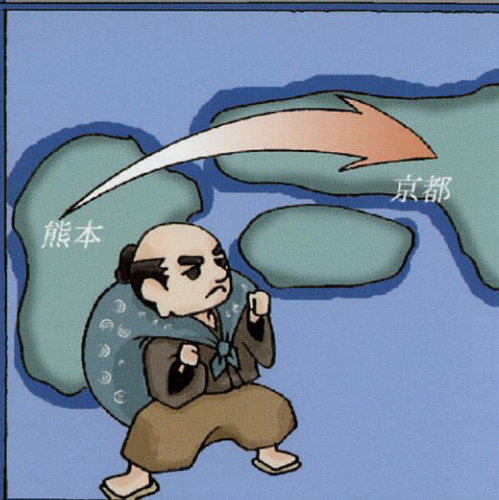
西山宗因は慶長一〇年(一六〇五)、加藤清正の時代の熊本に生まれ、初めの名前は次郎作といました。そして十五歳の時、八代を治めていた加藤家の重臣・加藤正方の小姓として仕えはじめました。





そして、一人前になって八代に戻ってきた次郎作は、名前を宗因と改め、八代で主君正方と共に連歌を楽しむ充実した日々を送りました。

しかし・・・



そこで翌年、宗因は故郷を離れ、正方の後を追って京都に向かうことを決心します。



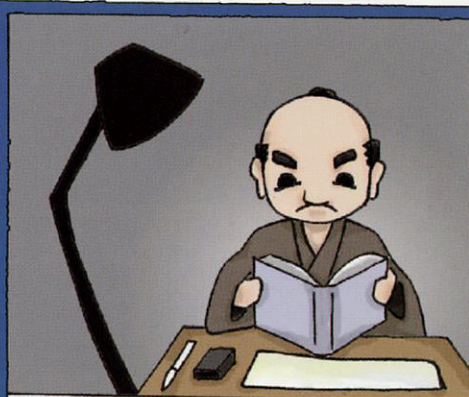
寛永九年（一六三二）、加藤家は幕府から領地を没収されてしまい、宗因も浪人になってしまいます。



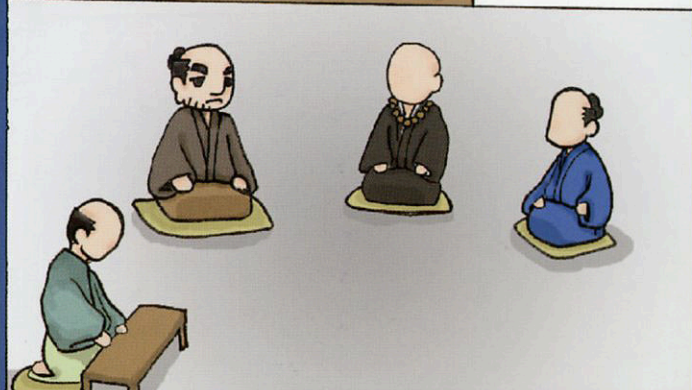
努力の甲斐あって、四十三歳で大坂天満宮の連歌所の宗匠になり、活躍しました。

連歌所 宗匠
(指導する人)

それから・・・



そして、連歌を職業にして生きていこうと決めた宗因は、再び連歌の修行に励みます。



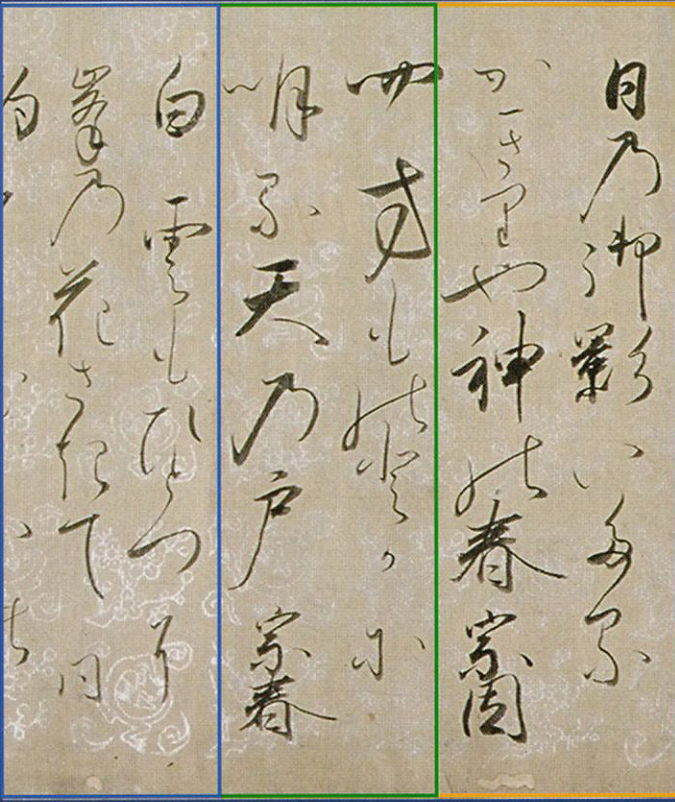
連歌・俳諧ってなあに？

ばしよう先生、連歌や俳諧とはどういうものですか？



連歌とは「五・七・五・七・七」の和歌を使った連想ゲームみたいなものだよ。ある人が詠んだ「五・七・五」に、別の人が「七・七」を付けて一つの歌を完成させて、そこにまたある人が「五・七・五」を付け加えるというように、みんなでどんどん詠みつないでいくんだ。連歌は室町時代から江戸時代にかけて大流行していたんだよ。

そして、俳諧は連歌の一種で、滑稽な句のことを言うんだ。



最初の五・七・五 (|| 発句) ※連歌会では主賓が詠む

日ひの御影みかげいたる
かぎりや神かみの春はる
宗因

最初の七・七 (|| 脇句) ※連歌会では主催者が詠む

四方よもものどかに
明ある天あまの戸
宗春

最初の五・七・五 (|| 第三) ※連歌会では宗匠が詠む

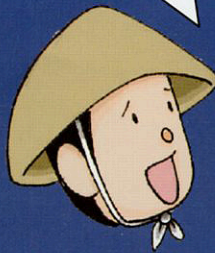
白雲しらくももひとつに
峰みねの花はなさきて
同



ばしよう先生

みんなで詠むから、いろんな発想が出てきて歌の内容がどんどん変化していくのが楽しそうですね。

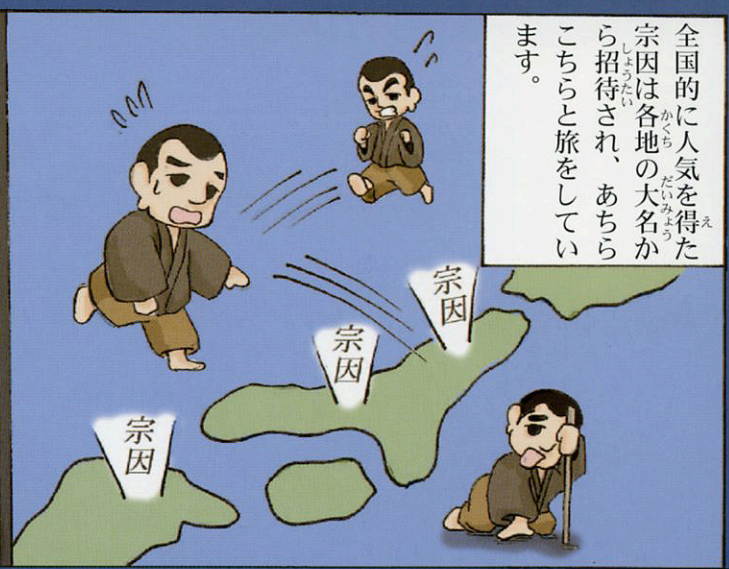
宗因さんはユニークな句をたくさん作って人気者になったから、それが俳諧発展のきっかけになったんだね。



宗因の俳諧の句

すりこ木も 紅葉もみぢしにけり 唐辛子とうがらし 梅翁ばいおう

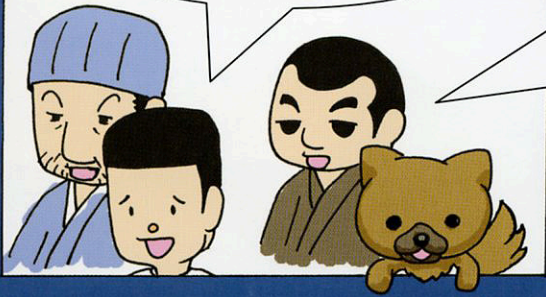
※(唐辛子をすりこ木ですりつぶしたら、紅葉のように真っ赤になった)



そして時は過ぎ運命の出会い・・・

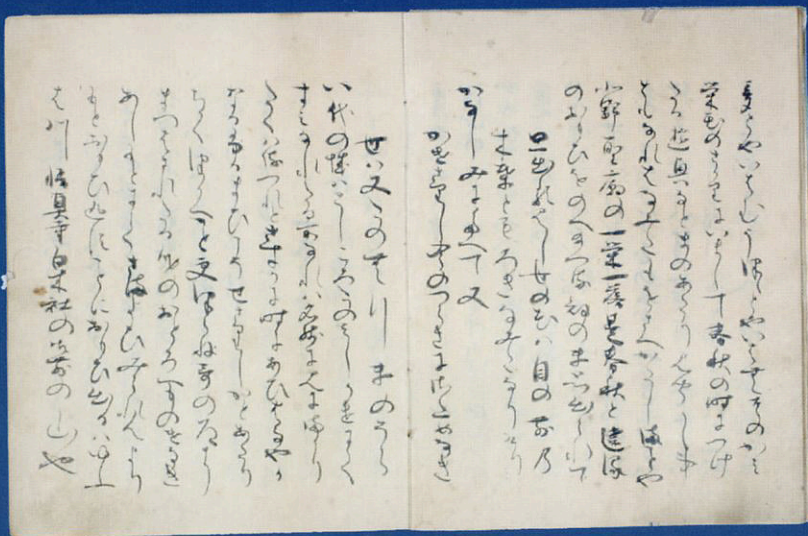


くまがわ かこう
球磨川の河口に発展した
城下町ですね！



ここが私が15歳から29歳までの
青春時代を過ごした八代の街だよ。
ここで私は主君・加藤正方さまに
お仕えて、連歌を勉強したんだ。

西山宗因を育てた街・八代



八代城（松江城）はずっと住み
慣れた私のふるさと。…今なつ
かしく思い出すのは、雄大な球
磨川と歴史のある悟真寺、それ
に八代神社（妙見宮）の前の
山々です。



宗因が八代の思い出を書いた『肥後道記』

（高知県佐川町立青山文庫所蔵）



八代城跡 (八代市松江城町)
 麦島城が地震で崩れた後に、加藤正方が新しくつくったお城です。後には細川氏のお城となり、家老の松井氏が明治になるまで城主をつとめました。

ここが宗因先生が加藤正方公にお仕えしていた八代城(松江城)ですか！立派な石垣ですね～



写真提供 八代市教育委員会

宗因さんは麦島城が地震で崩れた年に八代にやってきましたね。



むぎしまじょうあと
麦島城跡 (八代市古城町) ※現在は埋め戻して保存されています。
 天正16年(1588)頃に小西行長が築いたお城です。慶長5年(1600)からは加藤清正のお城となり、そのち加藤正方が城代としてやりますが、元和5年(1619)の大地震で崩れてしまい、使われなくなりました。

おお、なつかしいなあ。よくこの辺りを散策しながら、新しい歌を考えたものだよ。



悟真寺 (八代市妙見町)
南北朝時代に征西將軍懷良親王の菩提をたむかうために創建された由緒のあるお寺です。



宗因さんが八代にいたころの霧囲気が、今もまだ残っているんですね。



やつしろじんじゃ
八代神社 (八代市宮地町)

遠いむかし、中国からやってきた妙見の神様をおまつりする古い神社で、「妙見さん」として親しまれています。毎年11月22・23日には妙見祭という大きなお祭りがああります。

えどじだい えが まさかた そういん
江戸時代に描かれた 加藤 宗因



にしやまそういん がぞう
西山宗因画像 (八代市立博物館所蔵)



かとう まさかた がぞう
加藤 正方画像 (浄信寺所蔵)

ははは、なかなか男前に描いてありますね。



みんなも宗因先生のことを思い出しながら、
歴史ある八代の街を歩いてみてください！



イラスト なるおたつひろ

内容構成 とりづりょうじ

制作 笹の会 (八代文化研究会)

事務局 八代市北の丸町三の十

TEL 〇九六五―三四一五二〇八

(村山)